

第7回マチミチ会議
(全国街路空間再構築・利活用推進会議)

「デザインする」 への挑戦

堀江佑典

Yusuke Horie

一般社団法人エリアマネジメントラボ 理事

株式会社サンシャインシティ まちづくり推進部 エキスパート
andscape

北海道科学大学 客員教授

堀江佑典 Yusuke Horie 都市プランナー



▶ 一般社団法人エリアマネジメントラボ / 理事



▶ 株式会社サンシャインシティ / まちづくり推進部 エキスパート



▶ 北海道科学大学 / 客員教授 (建築学科)



▶ 認定NPO 日本都市計画家協会 / 理事



▶ andscape / 主宰



yusuke_horie@andscape.info

▶ 王子駅周辺エリアプラットフォーム / 代表幹事

建築デザイン事務所を経て都市計画・まちづくりのプランナー、そしてエリア特化型デベロッパーへ

1978年、仙台生まれ。建築意匠を専攻。

建築設計事務所

(店舗・オフィス・駅舎等の意匠設計)

個から全へ。都市のトータルデザイン分野・都市空間への興味

都市計画コンサルタント

(都市開発・都市施設・エリアマネジメント等)

「第三者視点」に加えて「当事者視点」として事業を動かす

地域企業 (共創デベロッパー)

(エリアマネジメント・エリアデベロップメント等)

【所属団体】

- 日本都市計画学会 会員
- 日本都市計画家協会 会員 / 理事
- 日本ファシリティマネジメント協会 会員
- 日本不動産学会 会員

受賞

■ GOOD DESIGN AWARD 2005、2021

主な研究

■ 京都大学経営管理大学院官民連携まちづくり研究会 / 民間委員 (2015~)

■ 日本都市計画学会「気候変動時代の包摂的な空間デザイン研究会」 / 研究員 (2018~2022)

発表・論文

■ 土地区画整理事業から生まれた街の交流拠点 (区画整理フォーラム2012)

■ エリアマネジメントの地域特性に関する分析 (日本不動産学会 (2016)) / 共著

出版

■ エリアマネジメント・ケースメソッド (学芸出版 (2021)) / 共著

■ パブリックスペース活用事典 (学芸出版 (2023)) / 共著



主な登壇

内閣府地方創生カレッジ、サステイナブルシティサミット、国土交通大学講師、国土交通省都市局ワーキング、共感都市再生セッション、各種シンポジウム、地域まちづくり勉強会 等

土木的建築(トンネルのデザイン)



GOOD DESIGN賞、Lighting Award

サイン設計



駅舎設計・設計監理



飲食店やオフィス



中心市街地
活性化

中心市街地・都心

都市再生

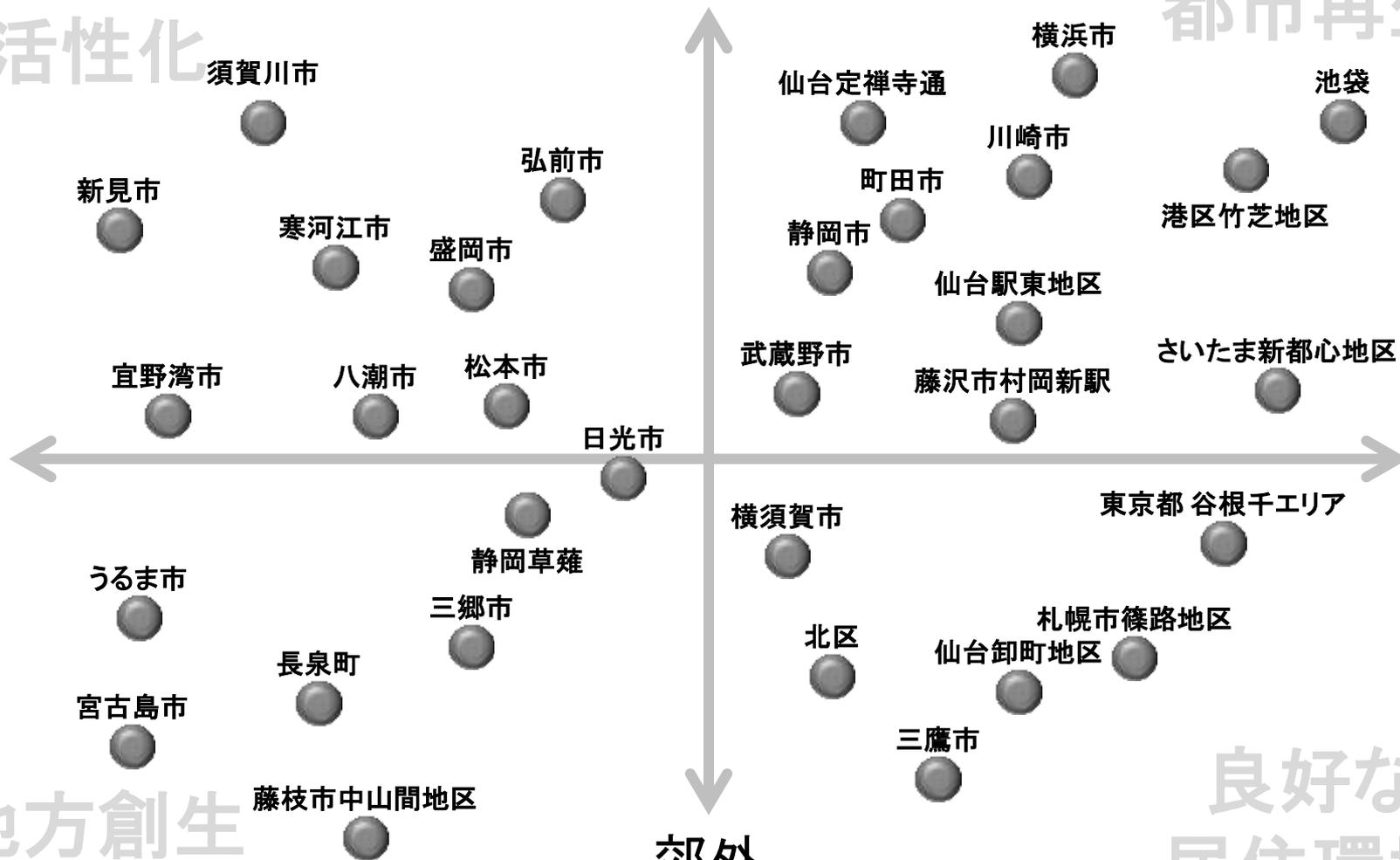
地方都市

大都市

地方創生

郊外

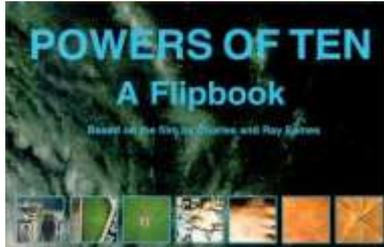
良好な
居住環境



その他：国土交通省、UR都市機構、研究機関 等

1/10000

政策
方向性
制度



Eames/1977

1/1

▶ 都市政策

- 国交省やURとの調査検討
- 都市計画マスタープランや緑の基本計画などの行政計画
- 市街化調整区域マスタープランなどの開発抑制計画
- 公共施設等総合管理計画（PRE（公的不動産）の整理・活用方針）
- 景観計画や大規模土地利用計画

▶ 地域計画

- 地域まちづくり計画系
- デザインガイドライン系
- 駅周辺まちづくり系
- 再開発や土地区画整理事業の事業化検討や事業地内プロジェクト

▶ 都市施設系

- 公園や河川空間の再整備
- ウォーカブル系（道路空間再編・ほこみち制度等）
- サイン計画
- 遊休公的不動産の利活用計画
- 学校等の公益施設の耐震改修計画
- 駅舎やトンネルのデザイン設計

▶ 民間施設系

- 飲食店
- オフィス
- アパレルショップ（提案）
- 映像ディレクション

具体の
空間設計

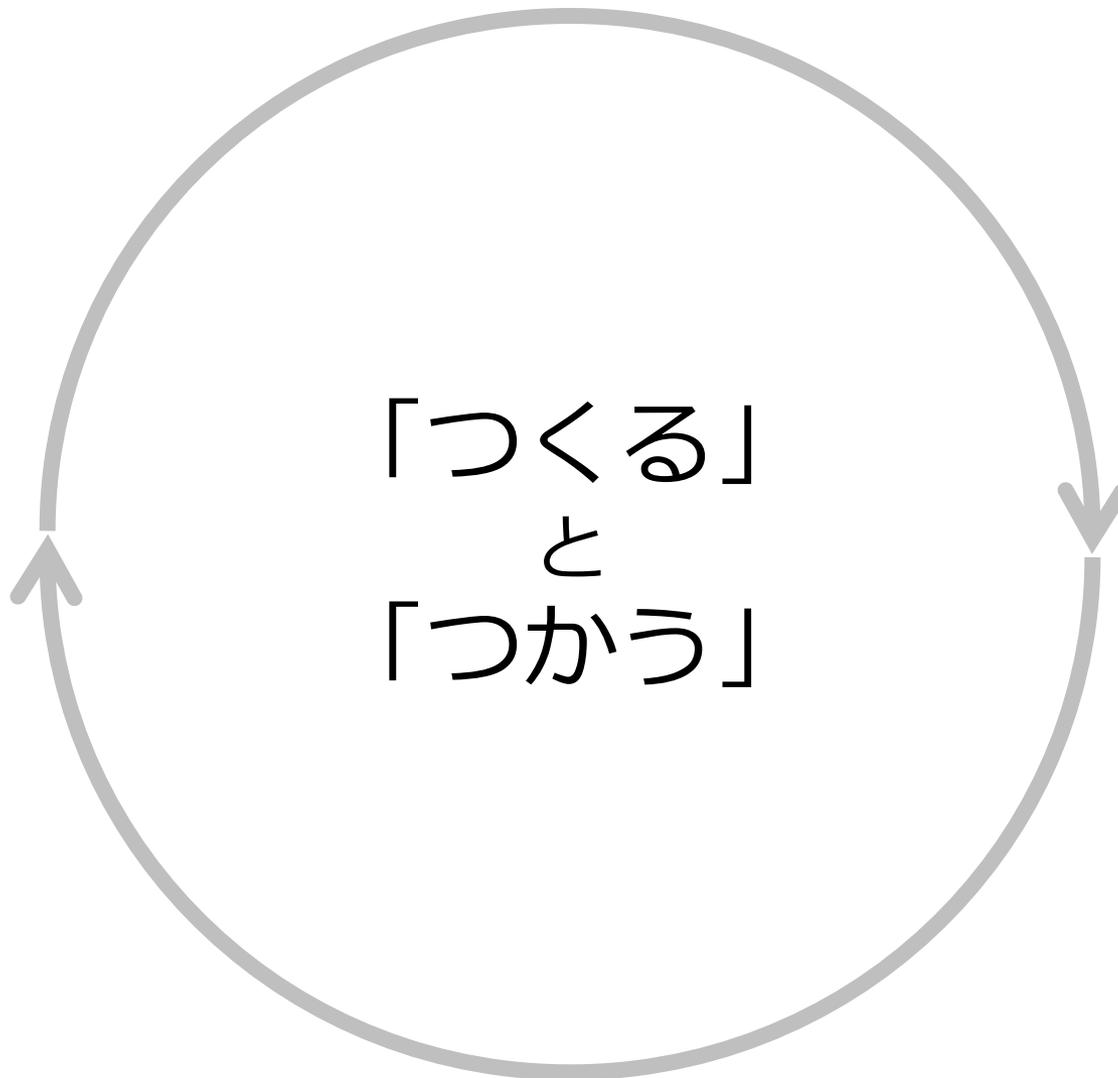


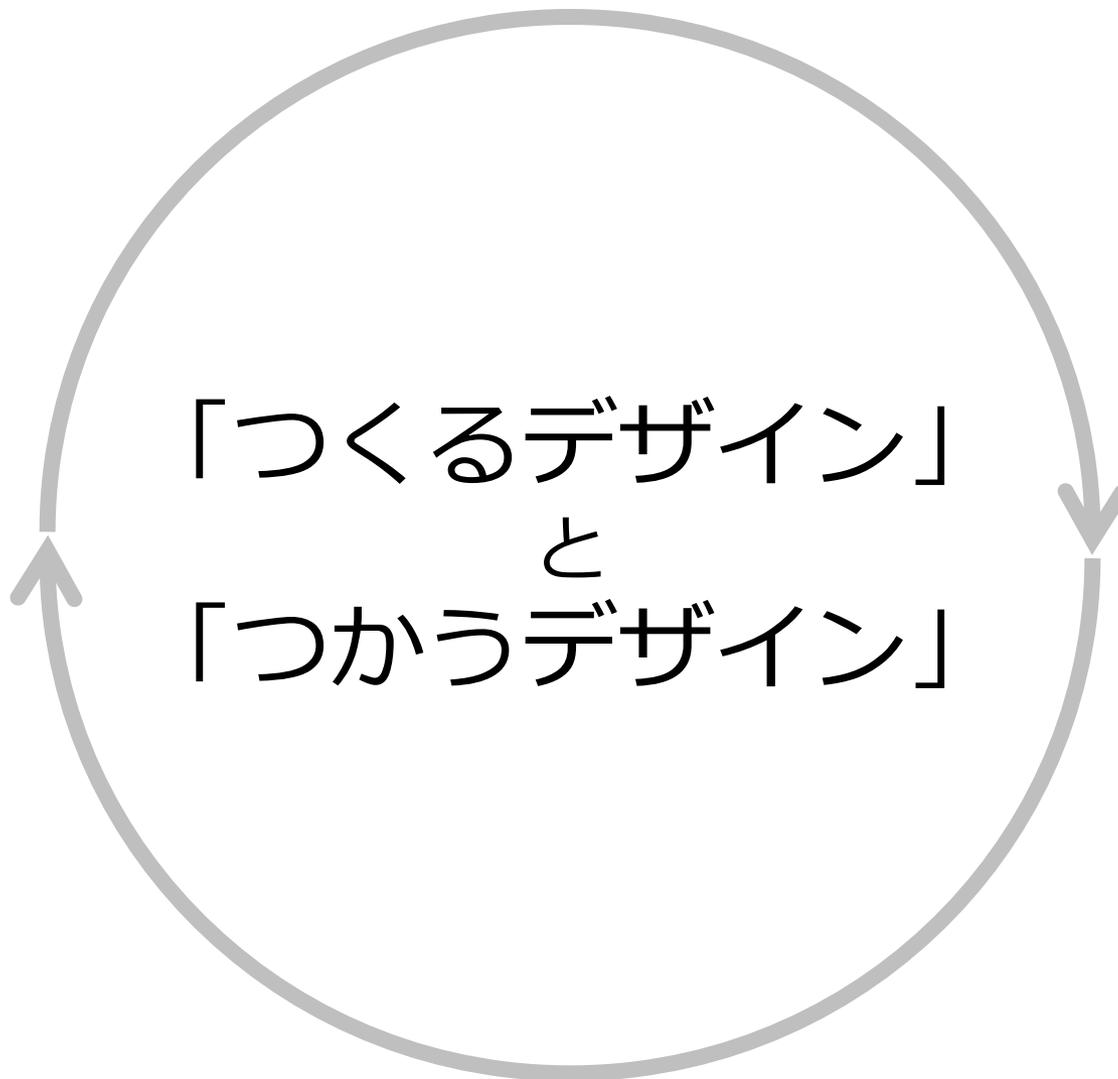
つくった空間がより良く使われているか？

（「空間の価値」とは使い方で決まるのではないか）

より良い「利用者」を育ててきたか？

（計画段階から「当事者意識」をどう育むか？）





2009年～【三郷市】三郷インターA地区／ピアラシティ中央公園＋ピアラシティ交流センター



【つくるデザイン】

土地区画整理事業
地権者組合による公園＋公園内建築整備
建築家・デザイナーとの協働
環境性能・CASBEE「S」



【つかうデザイン】

住民参加のプロセス
環境・食育に重点を置いた運営
指定管理者制度導入
町内会の再編



2009年～【三郷市】三郷インターA地区／ピアラシティ中央公園+ピアラシティ交流センター

従来の土地区画整理事業とは異なる「まちづくりへのアプローチ」

基盤整備型 → **価値創造型**



2009年～【三郷市】三郷インターA地区／ピアラシティ中央公園+ピアラシティ交流センター



2010年～【桶川市】水辺再生／河川緑道整備＋維持管理協定



before
after



before
after

【つくるデザイン】

河川景観整備
視点場・滞留場の設定
河川法

【つかうデザイン】

市民参画
地域のお祭り
町内会と河川管理者の維持管理協定



2013年～【静岡市】草薙駅周辺地区／駅周辺再整備＋(一社)草薙カルテッド(都市再生推進法人)



【つくるデザイン】

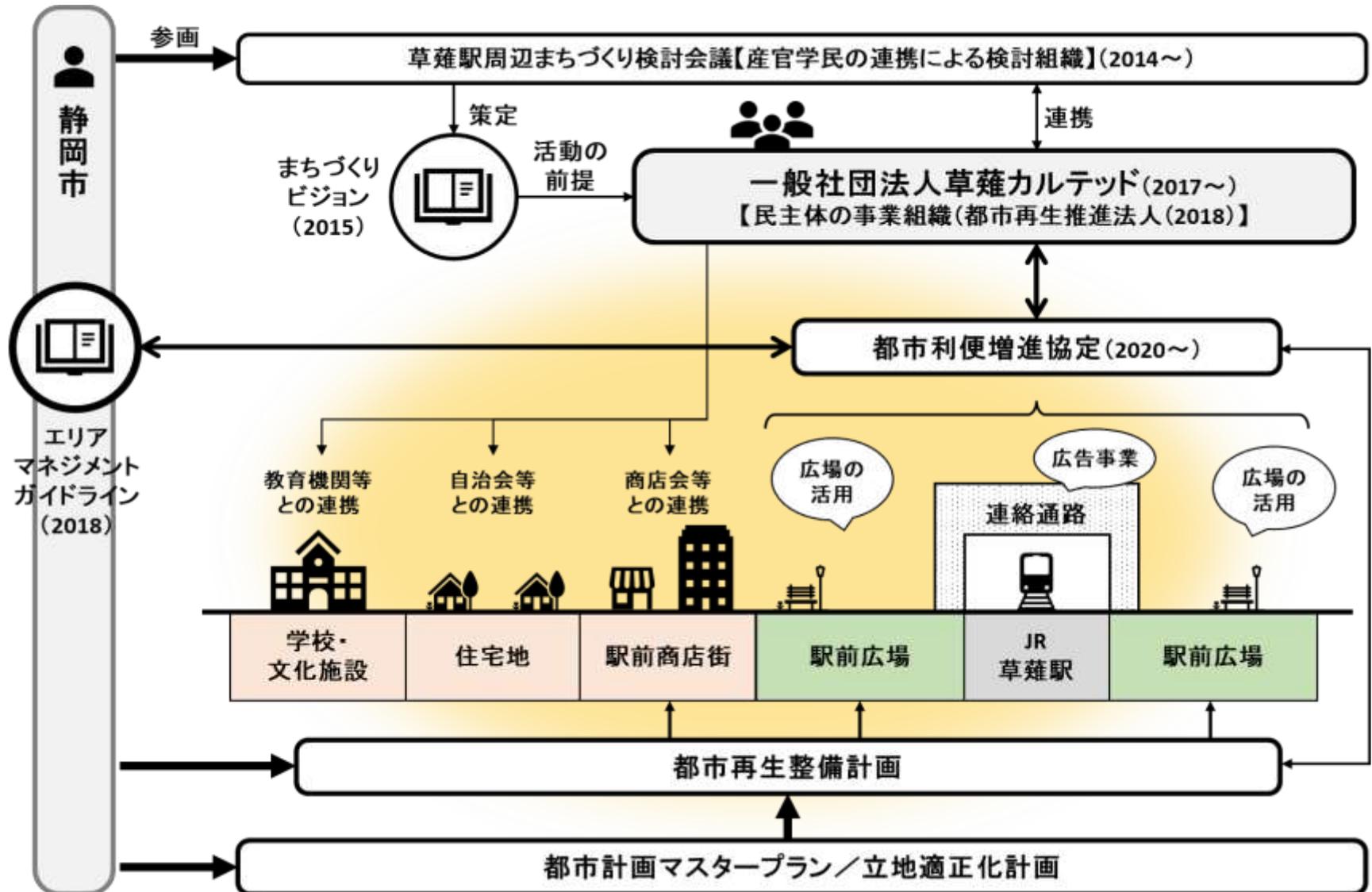
ビジョン・ガイドライン・都再計画
駅前広場・街路計画・沿道空間デザイン
緑化・個性・夜間照明

【つかうデザイン】

産官学民の検討体制(検討会)
エリマネ組織(都市再生推進法人)組成
都市利便増進協定・UDC



2013年～【静岡市】草薙駅周辺地区／駅周辺再整備＋草薙カルテッド



2013年～【静岡市】草薙駅周辺地区／駅周辺再整備＋草薙カルテッド



2013年～【静岡市】草薙駅周辺地区／駅周辺再整備＋草薙カルテッド



- コラボレーションスペースTaktの運営を行う学生団体「Con-Takt」(コンタクト)。
- 草薙カルテッド事務局の社会人と学生が所属。Con-Taktはメンバー構成が特徴的で、社会人と学生が同じ組織で活動。
- また、学生メンバーも多様で静岡県立大学や常葉大学をはじめ、計7大学の学生が所属。
- 主にTakt内でのイベント企画・運営、Instagram運営、ホームページ運営、受付などをう。

2016年～【札幌市】篠路駅周辺地区／地域拠点としての都市基盤再整備＋担い手育成



【つくるデザイン】

駅前再生土地区画整理事業
街路事業・鉄道高架化事業
公有地活用・土地利用転換

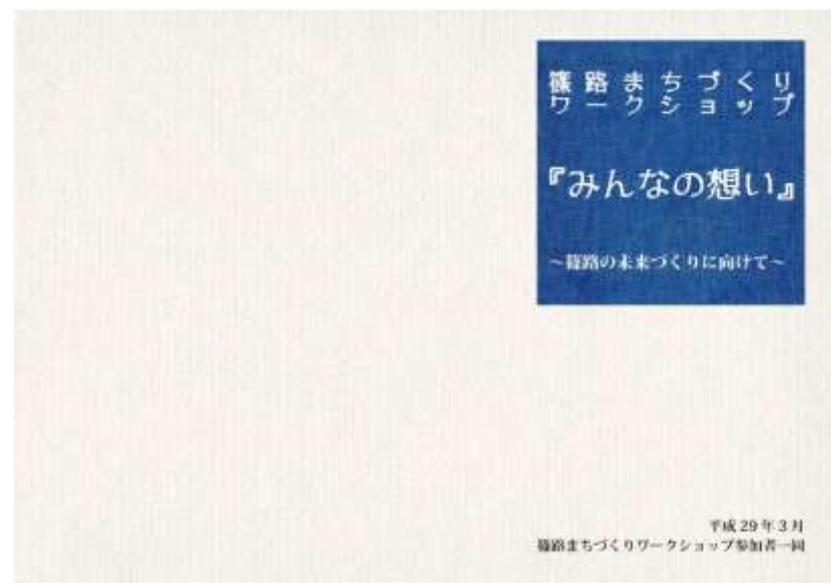


【つかうデザイン】

まちづくりへの機運醸成
道路や民地の利活用・社会実験
エリアマネジメント組織の組成



2016年～【札幌市】篠路駅周辺地区／交流拠点としての都市基盤再整備＋担い手育成



2018年～【仙台市】定禅寺通／道路空間再構成＋エリアマネジメント



【つくるデザイン】

中長期的ビジョン・構想
道路空間再構成
沿道土地利用・都市再生



【つかうデザイン】

エリアマネジメント体制の構築
プレイヤーの発掘・巻き込み
歩行者利便増進道路等の制度活用

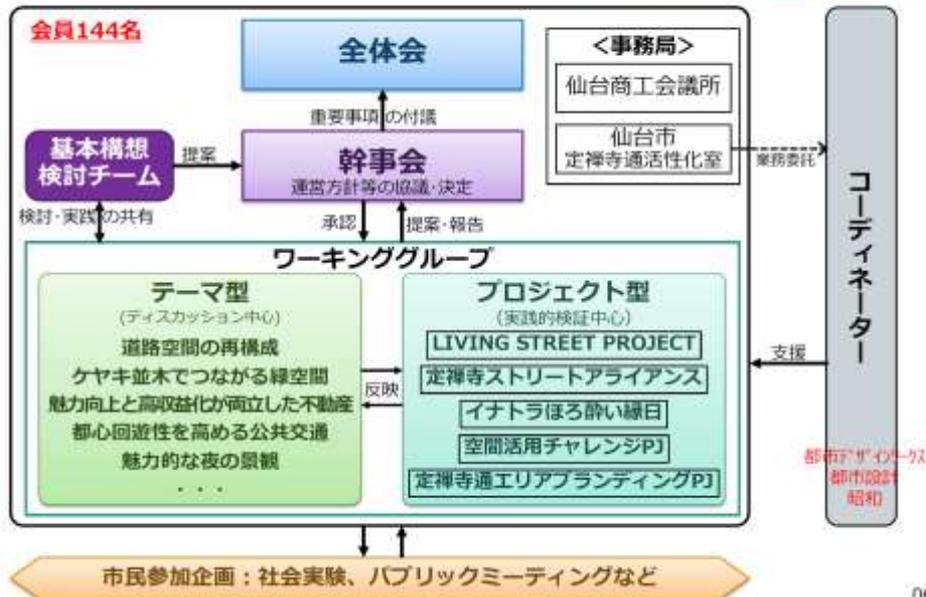


2018年～【仙台市】定禅寺通／道路空間再構成＋エリアマネジメント



定禅寺通活性化検討会の体制図

2018年10月設立-2022年5月解散



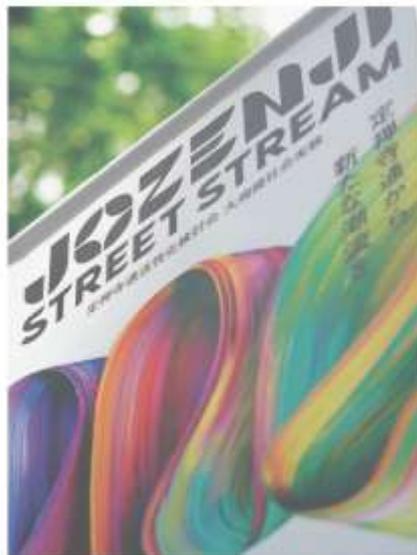
項目	定禅寺通活性化検討会			
	定禅寺通活性化検討会	定禅寺通活性化検討会	定禅寺通活性化検討会	定禅寺通活性化検討会
計画	計画	計画	計画	計画
実施	実施	実施	実施	実施
評価	評価	評価	評価	評価
その他	その他	その他	その他	その他

2018年～【仙台市】定禅寺通／道路空間再構成＋エリアマネジメント



定禅寺通エリア
まちづくりビジョン
2030
定禅寺通エリアまちづくり基本構想

2022.03
定禅寺通活性化検討会



2022年～【豊島区】池袋駅周辺地区／ウォークブル+エリアプラットフォーム+ストリート

【つくるデザイン】

都市再生緊急整備地域
再開発・リノベ・保全
公園再生

【つかうデザイン】

国家戦略特区→ほこみち
池袋エリアプラットフォーム
ストリートデザイン



池袋を、人中心の街へ

池袋駅周辺における近年の様々な都市政策の動き

- 2015 / 国家戦略道路占用事業の指定
- 2016 / 南池袋公園再整備 (以後、公園再生が続く)
- 2017 / 池袋リビングループスタート
- 2020 / 池袋駅コア・ゾーンガイドラインの策定
- 2023 / いけぶくろウォーカブルコンセプトブックの策定
- 2023 / 東西ウォーカブル社会実験の実施
- 2024 / 池袋駅コア整備方針の策定

個々の動きや場をつなげ、伸長させ、面の動きとするために
官民連携によるまちづくりの加速→真に人中心の街へ

池袋エリアプラットフォーム

2022.11組成

“人中心の街” “ウォーカブル”

を重要なキーワードとした
官民連携体制による未来ビジョン

2024.05策定



<p>いつでも、いつまででも、 時間を忘れるほど 楽しいまち</p> <p>●通りや建物が多くなり、あふれる人混みも心地よいまちになっていく。</p> <p>●公園がストリート・公園型などで、多様なスポーツなどのプログラムが行われ、人々がいきいきと活動している。</p>	<p>文化・教育・アートを盛り込み、 豊かな感性で 心躍るまち</p> <p>●まちなかで芸術やカフェを楽しむ、エンタメ文化が広がっている。</p> <p>●アートなどの文化・芸術がまちなかで感じられ、目覚めている。</p>	<p>暮らし・仕事・遊び、 新しい発見に溢れた 創造的なまち</p> <p>●学生や外国人、ワーカーなどの交流が生まれ、まちなかでオープンカフェが広がっている。</p> <p>●企業の“場”を通じて、まちなかで新たな事業や活動、交流が生まれている。</p>
---	--	--

私たちは、官民が連携した人中心の都市環境形成により、
安心・安全に人々が集い、憩い、歩き回れる豊かな街の実現を目指しています。

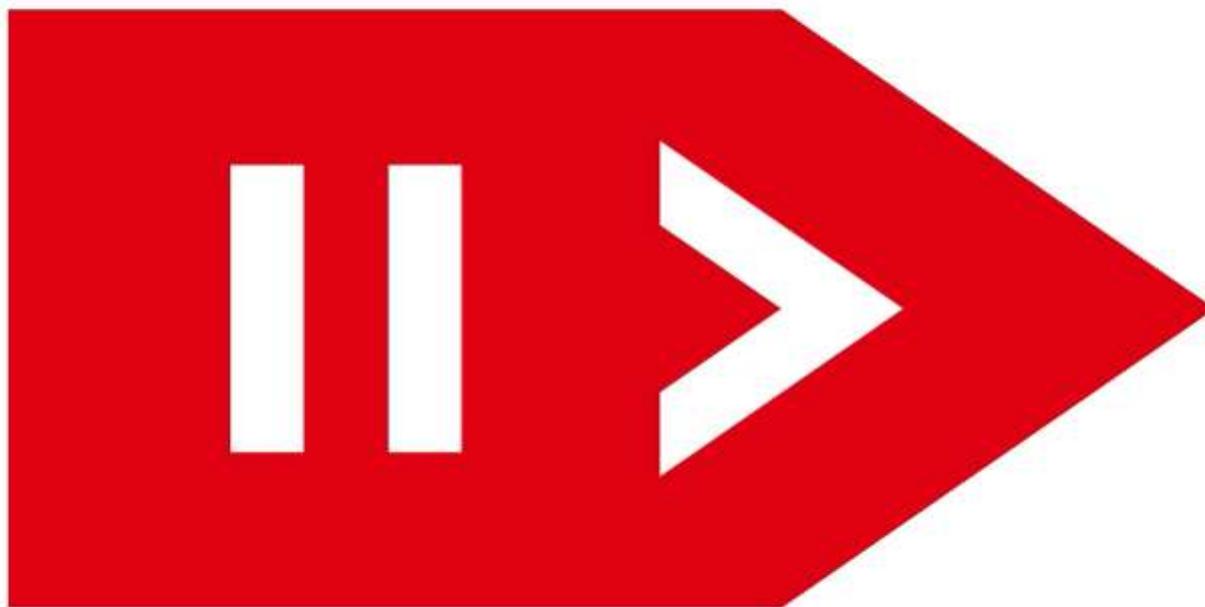


池袋は、個性あるエリア・個性ある街路の集合体
その個性をより高めることで、面的な回遊につながるのでは？



都市の街路がおもしろそうなら、その都市もおもしろそうに見えます。
それが退屈そうなら、都市も退屈そうです。

Jane Jacobs "THE DEATH AND LIFE OF GREAT AMERICAN CITIES" 1961

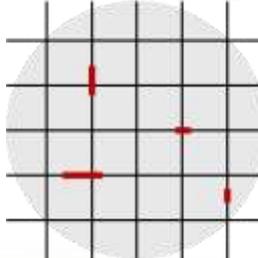


基本的な考え方

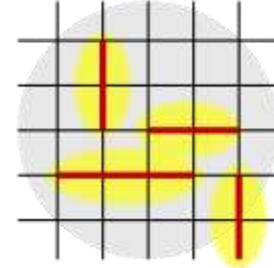
エリアごと・街路ごとに特徴や個性が異なるのが「池袋の多様性」であり「池袋の魅力」を生み出す源泉となっている。街路ごとの個性を磨き、伸ばし、街路空間を一体的にマネジメントし、街路と街路をつなげていくことが池袋ならではのまちづくりではないか。

「個・点」から線に。線から面に。

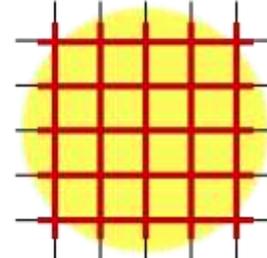
潜在的な可能性を広げ、沿道関係者の強い想いを紡ぎ、



ストリートごとの個性や魅力として磨き、醸成し、



池袋全体の多様性や文化の豊かさとして共奏していく



民有空間
(店先・オープンスペース等)

公共空間
(道路・歩道)

民有空間
(店先・オープンスペース等)



- にぎやかではなく、恒常的な空間形成を目指す。
- 街路全体の「つくり方（空間）」と「つかい方（行動・管理）」の両方の視点で検討する。
- スモールスタートを旨としつつ、常に総論と各論を意識する。

街路から変えていくまちづくりの推進体制

制度活用

様々な制度適用も
視野に入れて検討推進

道路占用
許可制度

歩行者利便
増進道路

都市利便増
進協定制

池袋エリアプラットフォーム

部会を中心に、多様なノウハウと実行力を持って検討を推進

ストリートデザイン部会

- 利害関係者を交えた検討深度化（確実な合意形成へ）
- 将来につながる社会実験（検証と実践の繰り返し）
- 次代に向けた街路環境の提案（官民領域の一体的環境形成）

ロマンス通りWG



南北区道WG



【部員】

株式会社サンシャインシティ、NTTアーバンソリューションズ株式会社、東京建物株式会社、ロサランド株式会社、独立行政法人都市再生機構、株式会社アニメイトホールディングス、一般社団法人豊島区建築設計事務所協会

お茶の水女子大学
共創工学部
藤山真美子准教授
& lab



産学連携による
ストリートデザイン
のディレクション
チーム

ステークホルダー

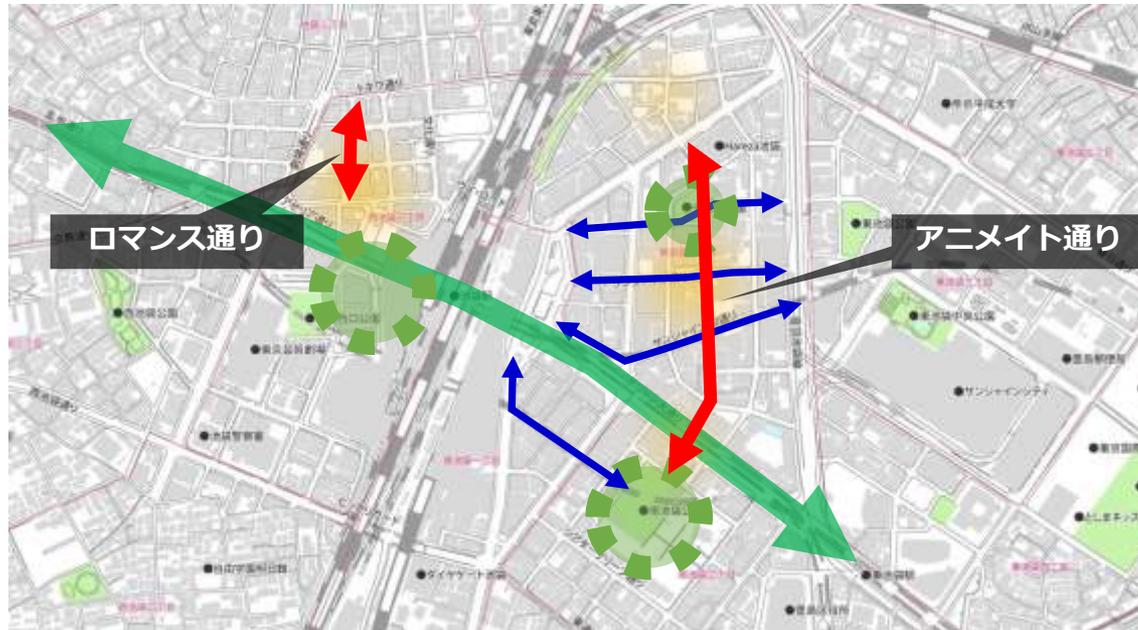
様々な利害関係者と
協働で未来像を実現

沿道
不動産
オーナー

沿道
事業者

関係機関

2つの性格の異なる街路を抽出しモデル的に実施した「実験」



	ロマンス通り	アニメイト通り
現状	<ul style="list-style-type: none"> ● 夜間17～01時まで交通規制 ● 商店会が存在している ● 警察との連携により防犯活動が取り組まれている ● とはいえ、まだまだ環境改善（美化・安心安全）への取組が重要視されている ● 沿道では今後建替え計画なども進むことが検討されている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 南池袋公園エリアと中池袋公園エリアの回遊性が低い（データ活用チーム分析より） ● いくつかの地縁組織に係っている ● 2024年に「アニメイト通り」として呼称が統一された（旧名は「南北区道」） ● 土日祝の12～19時まで交通規制 ● 上位計画では緑のネットワークや歩行者ネットワークに位置づけ
求められる街路の役割・空間	<ul style="list-style-type: none"> □ 老若男女が安心安全に過ごせる環境づくり □ 開発計画と併せた「池袋にふさわしい個性ある街路（民地と道路の関係）」の実現 	<ul style="list-style-type: none"> □ 非常に多い人流のある通り（青線）をつなぐ役割 □ グリーン大通りからインナーに人を誘導する「顔」の役割 □ 緑の連続性・歩行快適性を実現する空間形成
社会実験での具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 夜間も安心安全に居られる滞在空間づくり ➢ 「ロマンス通り」を表現する空間デザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 人の流れをつくり空間の連続性を表現するサイン等のV.I.や空間デザインの在り方 ➢ 街路と街路の接点の「顔」の作り方

>>>> ロマンズ通り >>>>

- 池袋随一の繁華街（夜の街）に位置しており、多くの飲食店が並ぶ。商店会も活力がある。
- 安心安全（心理的安全性）な環境をいかにつくり、新たな利用者づくりとイメージ改変へ。

Concept 01
広場空間としての四叉路
自然と交流が生まれるナイトステージ



ロマンズ通りを構成する店舗の雰囲気や街路空間へと滲み出すことで、夜間に街を訪れる（或いは通過する）人々の佇まいが、繁華街に安心感と穏やかな一体感をもたらし、商業集積地としてのロマンズ通り特有の界強性を形成する仕組み

>>>> アニメイト通り >>>>

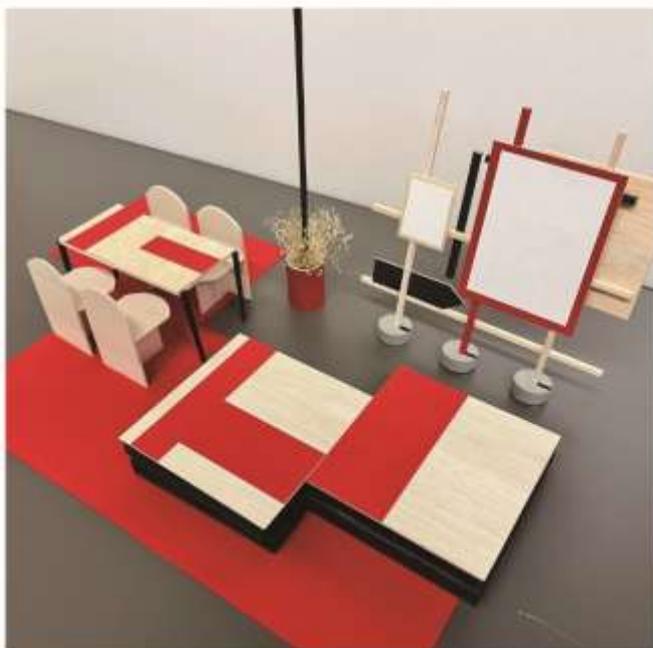
- 2つの異なるエリア、人流が集中する動線をつなぐ、新たにネーミングされた街路
- 街路としてのアイデンティティと新たな人流をどう作り出すか

Concept 01
人流を生み出す街のノード
池袋レッドに彩られたストリートファニチャー



アニメイト通りの端部（グリーン大通りとの交点）に位置するニッセイ池袋ビル公開空地と、ハレザ池袋に位置する中池袋公園が、「街の結節点（NODE）」として機能し、周辺環境や交差する街路から人の流れを引き込みながら、街歩きに広がりや賑わいを生み出す仕組み

- 【課題1】 ストリートファニチャーの展開可能領域(土地・申請許可上)に限られる
- 【課題2】 ストリートファニチャーだけでは参加可能な店舗に限られる
- 【課題3】 街路の一体性形成の上ではファニチャーだけでは限界がある可能性がある



ストリートファニチャー
Street Furniture
[街の大道具]



シェアプロップ
Share Prop
[街の小道具]

+ 統一的なキービジュアル

イケブクロニゴー
IKEBUKURO 25



テーマカラー：「IKEBUKURO RED」

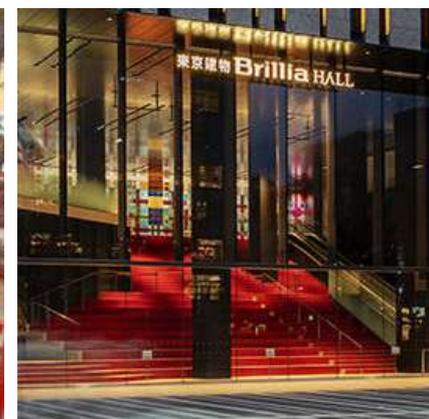
まちなか交流バス「IKEBUS」と同じ池袋レッドをテーマカラーとして採用しました。池袋のパブリックカラーとして親しまれている「赤」で統一されたファニチャーやプロップによって、池袋の街に新たな一体感と活気をもたらします。



IKEBUS



としまキッズパーク



Hareza池袋

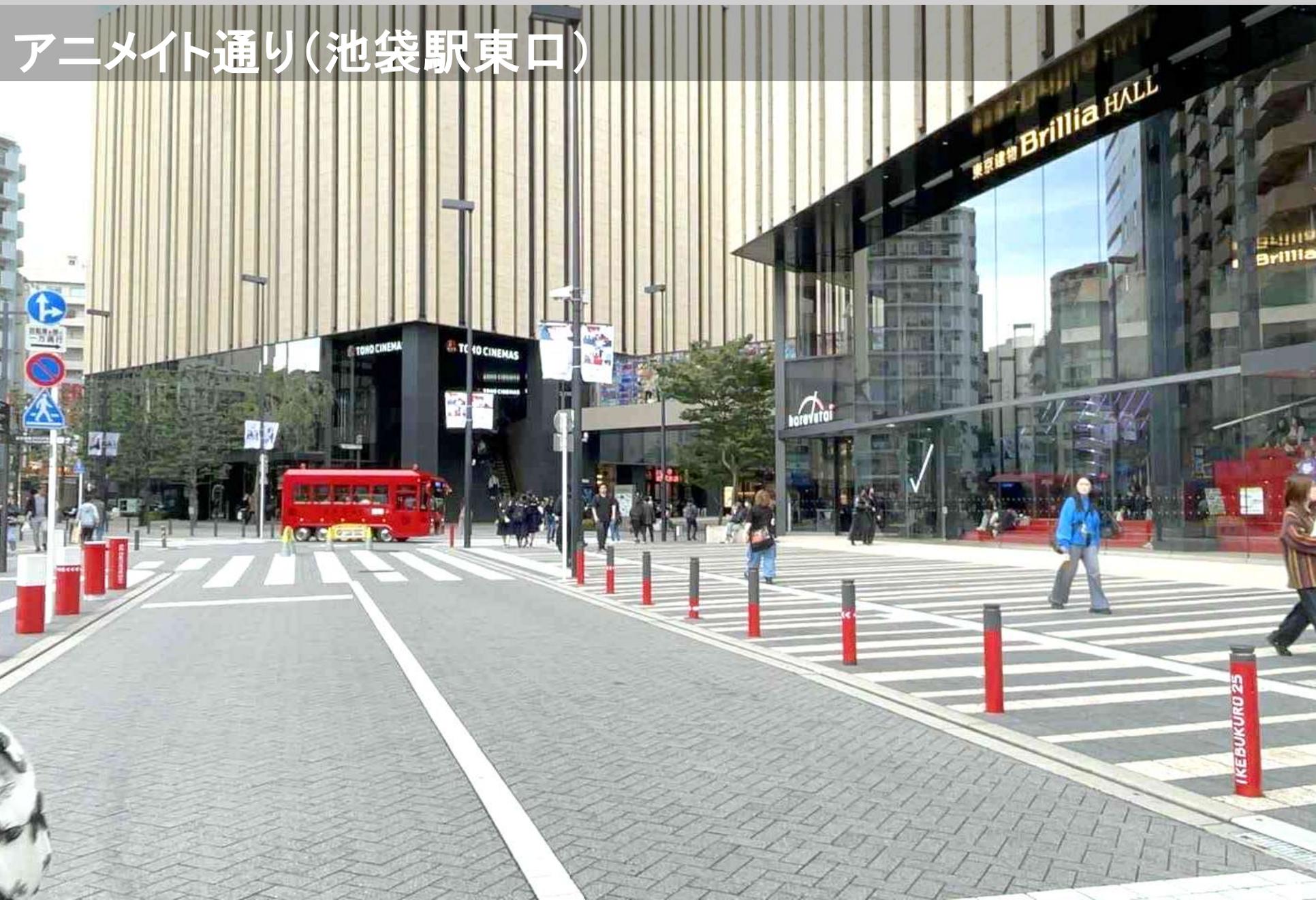
	 黒(ブラック)	 赤(池袋レッド)
プロセスカラー	C60+M40+Y40+K100	M100+Y100+K5
特色印刷	DIC 582 / TOYO INK 97C 墨	DIC 2485 / TOYO CF 10090

上記以外は極力自然素材・自然色・無彩色を活用



武蔵塗料さんのご協力

アニメイト通り(池袋駅東口)



アニメイト通り(池袋駅東口)



アニメイト通り(池袋駅東口)



ロマンス通り(池袋駅西口)



ロマンス通り(池袋駅西口)



ロマンス通り(池袋駅西口)

防犯活動団体との連携 (防犯アイドルによる啓蒙活動)



ロマンス通り(池袋駅西口)

美術専門学校との連携 (アートパフォーマンス)





まちが変わるウォークブルのデザインとは

「つくる」

と

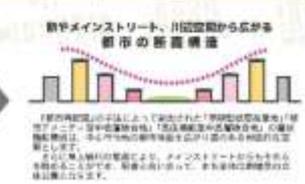
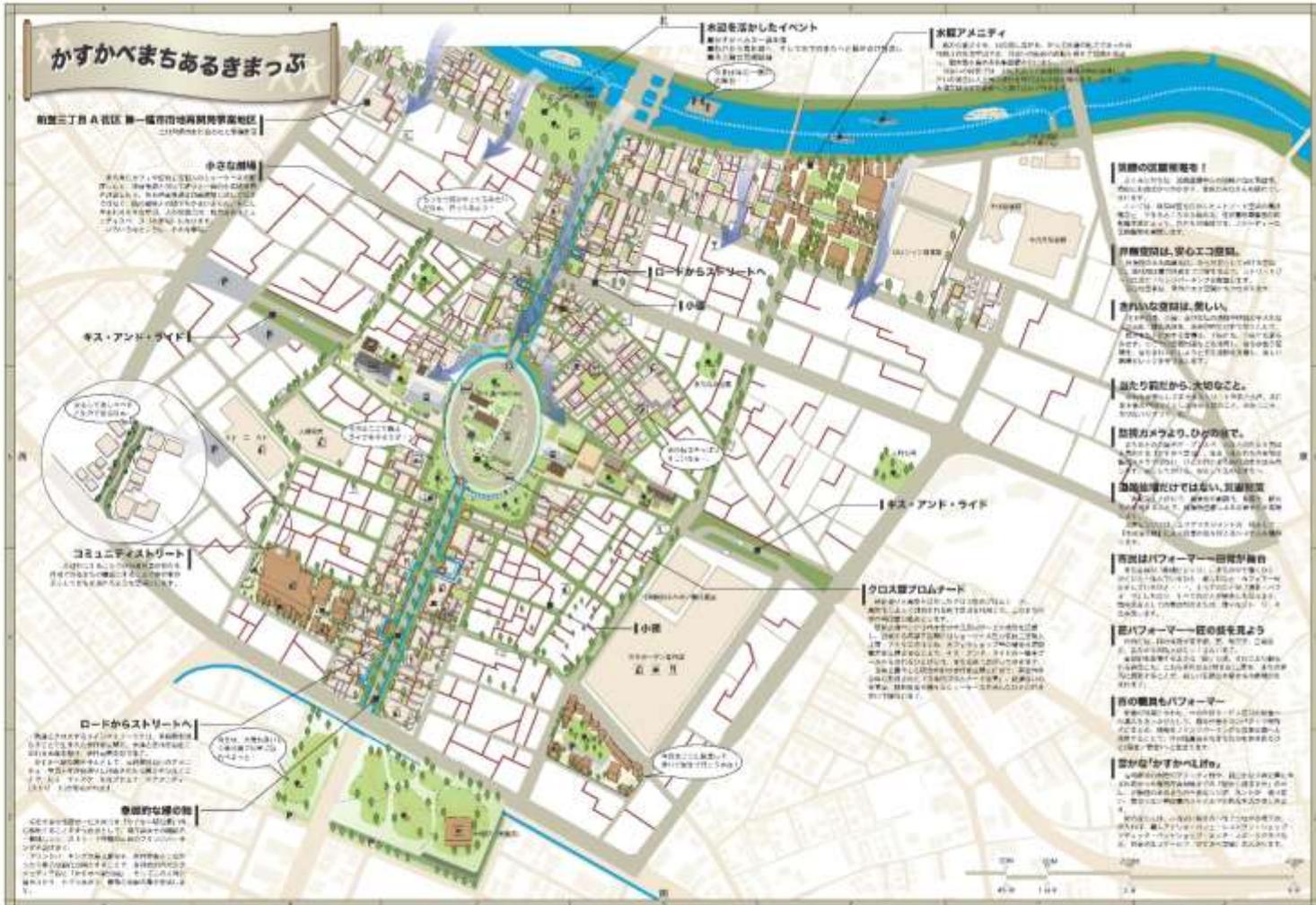
「つかう」

どのようにデザインに挑戦していくか

まちづくり・都市デザイン競技 (2007)

CONCEPT

- 1 「ひと」と「みち」の関係を見直そう**
まちづくりは、ひととまちの関係を見直さなければならない。まちづくりは、ひととまちの関係を見直さなければならない。まちづくりは、ひととまちの関係を見直さなければならない。
- 2 ロードからストリートへ**
まちづくりは、道路からストリートへ。まちづくりは、道路からストリートへ。まちづくりは、道路からストリートへ。
- 3 WEB ネットワークへ再配置手法の活用**
まちづくりは、WEB ネットワークへ再配置手法の活用。まちづくりは、WEB ネットワークへ再配置手法の活用。まちづくりは、WEB ネットワークへ再配置手法の活用。
- 4 浸透街区へ直流から交流へ**
まちづくりは、浸透街区へ直流から交流へ。まちづくりは、浸透街区へ直流から交流へ。まちづくりは、浸透街区へ直流から交流へ。
- 5 「かすかべ空間」で、出会う。**
まちづくりは、「かすかべ空間」で、出会う。まちづくりは、「かすかべ空間」で、出会う。まちづくりは、「かすかべ空間」で、出会う。
- 6 半径6min. 無限の劇場ビレッジ。**
まちづくりは、半径6min. 無限の劇場ビレッジ。まちづくりは、半径6min. 無限の劇場ビレッジ。まちづくりは、半径6min. 無限の劇場ビレッジ。



C O N C E P T

1 「ひと」と「みち」の関係を見直そう

中心市街地は、これまで他地域と結ばれるために、幹線道路（ロード）をメインとした都市構造を構成し、発展してきました。

かつて宿場町として多くの旅人でもたぎった春日部もまた、同様にロードの整備によって外とのつながりを求めてきました。しかし、幹線道路によって開かれた「つながりの関係」は、今ではもはや「走り抜ける」道へと変化してしまっています。

ここでは、「ひと」と「みち」の関係を見直すことで、中心市街地における「ひと」と「ひと」の新しい劇場的なスタイルを生み出すことを提案します。

2 ロードからストリートへ

車中心に発展してきた「みち」。これを「ロード」と呼ぶならば、歩行者中心のみちは「ストリート」。春日部中心市街地は、ロードに囲まれ、かつロードが通り抜けるまち。

ロードからストリートへの転換操作を、まず、駅前メインストリートから始めます。半径400Mの中心市街地を現状幅員24M、30Mの駅前ロード……。車線を減らしたロードは、駅周辺ゾーンではバスやタクシーのみの公共交通専用道路に、広くなった歩道には、駅から古利根川、駅から市役所へと続く水路などによって、歩道アメニティを充実させます。通過交通がなくなり、開放感とヒューマンスケールの速度感を得た駅前通りは、ロードからストリートへ生まれ変わります。

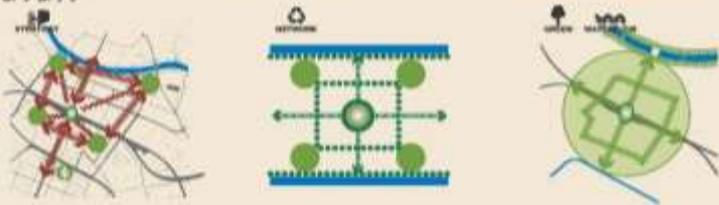


3 WEB ネットワーク～再配置手法の活用

ロードからストリートへの転換操作は、春日部をにぎわいのあるまちへと導く第1ステップにすぎません。ここでは、ストリートを機能的なネットワークとするために、まち全体の「街区」構成を考えます。

中心市街地の外縁へ遠いながらも、界隈性を生み出す低層小型商業系をメインストリート沿いに……。そして、駅前周辺に立地する業務系などの中高層建物を中心市街地の外縁へ……。これらは既存の大型商業施設や文化施設と相まって、高度な都市機能を形成します。そして、中間部分から外縁部には、住戸や福利厚生サービスなど、都市アメニティを充実させる要素を誘導します。

高度な都市機能でしっかりと外縁を固められた、駅前周辺やメインストリート沿いに展開される小型商業地。それらを結ぶ線と水のネットワーク。そしてそれらをつなぐストリート。インターネットのように、様々なアクセスできる（WEB ネットワーク）、春日部の新しい都市基盤がはじまります。

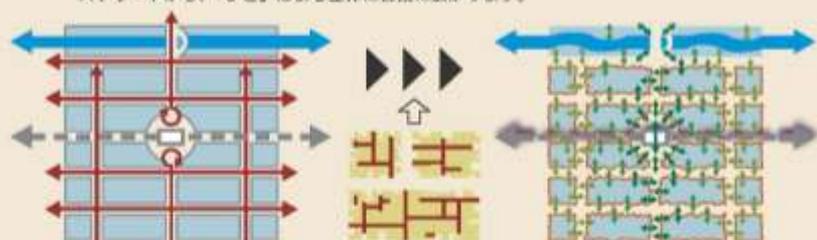


4 『浸透街区』～直流から交流へ

半径400M、徒歩6分で外縁につながる中心市街地を、歩行者中心となったストリートを起点に、『ひと』をどのように中心市街地全体へ浸透させるか、『にぎわい』は『ひと』と『ひと』の出逢いから始まり、そこにドラマが生まれます。

ストリート空間に対し閉鎖的な街区空間ではなく、街区空間に、そして建築空間にどんどん『ひと』を引き込むような空間へ。

ここでは、ストリートと建物の境界に『オープンスペース』を点在させ、『小径（こみち）』を建物と建物の境界に挿入することで、『ひと』をストリートから引き込む空間を作り出します。ストリートから、『ひと』はまち全体に自由に広がります。



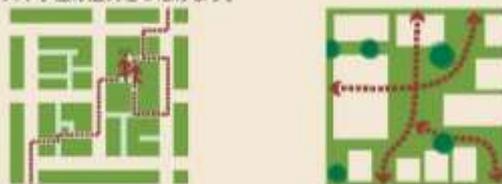
街区の構造を変えるのではなく・・・

まちに開かれ『ひと』と出逢う空間を大きくします。

5 『かすかべ空間』で、出逢う。

歩いてよし、立ち止まってよし、座ってよし、たとえば、軒先の縁側のような。たとえば、路地に面した土間空間のような。

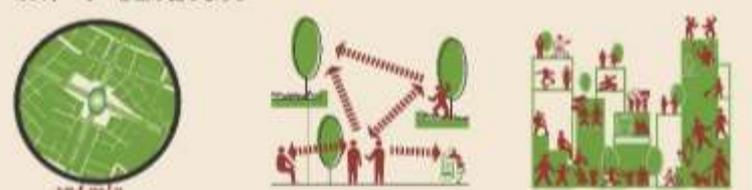
ストリートに面した『オープンスペース』やストリートからひとを引き込む『小径』沿いには、必ず建物の『壁』が存在します。従来『壁』は『閉ざすもの』、『隔てるもの』として機能してきましたが、ここでは、『出逢いを魅力的に演出する壁の表現（かべ trap）』によって従来の『壁』を『ひととひとが出逢う場所（かすかべ空間）』とすることで、様々な都市活動の魅力とオープンスペースや小径の魅力をつなげます。



6 半径6min. 無限の劇場ビレッジ。

ひとひとの出逢いと活動を魅力的にする『かすかべ空間』。だれもが演者となり、観者にもなる空間。日常は舞台となり、まちは劇場となります。

歩けば半径6分の中心市街地。しかし、劇場となった「かすかべ（劇場ビレッジ）」は、無限のストーリーを生み出します。



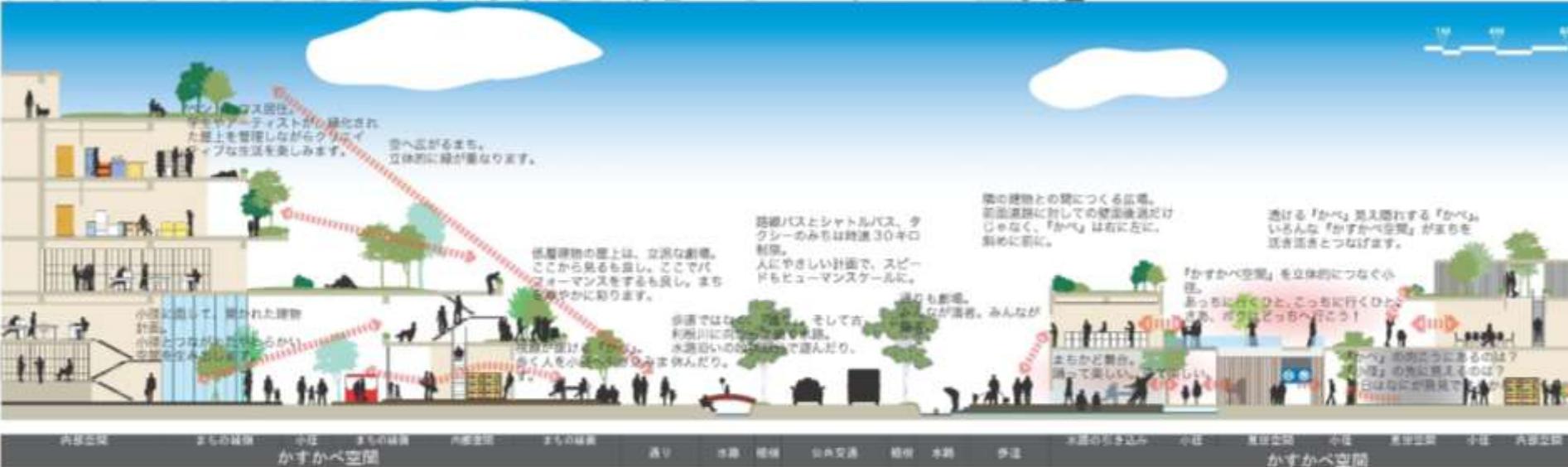


公園、商業施設などをカフェ、ショップなどで「開く」ことで、公園オープンスペースの使い方にバリエーションを持たせます。(ex: 図書館と公園・図書館とオープンカフェー)

建物と建物との間にポケットパークやオープンカフェといった、ひとひとの距離が近い空間を創る事でひとがそこに留まる「寄りかかる」(密接な状況を一時的に作り出す。)そこで、会話を楽しむこともできます。

店舗、伝統工芸の職人さんの工房などを、普及が部分的に「透かし」「抜ける」仕掛けを創ることで、店舗内部へひとを「引き込む」、建物の中の匂い、賑わい、ひとの気配、音、話し声外ににじみ出させ、中の空気感を外にいるひとに「透かす」ことで興味を持ったひととの出会いが生まれます。

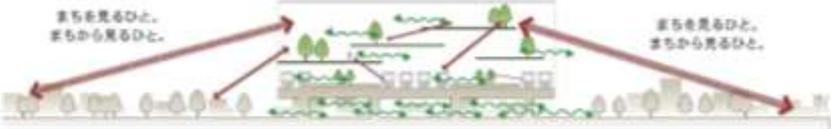
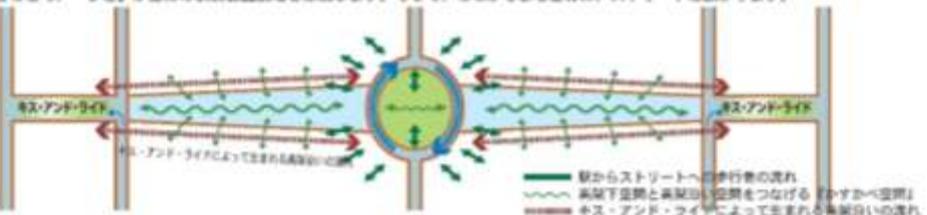
アクティビティを起こす、支える、見せる『かすかべ空間』



ストリートの、はじまり。

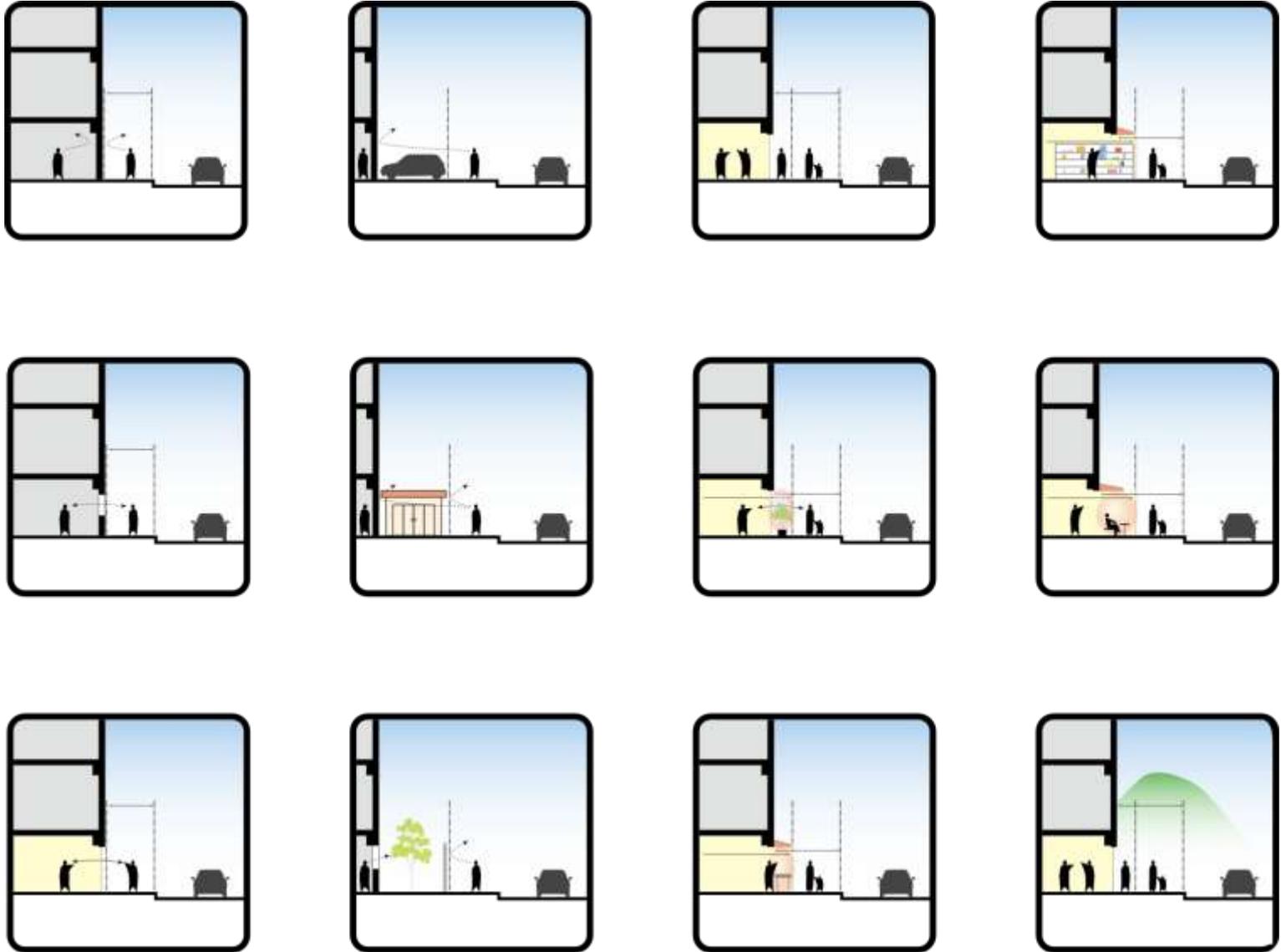
駅の高架化。この事業を活かして、駅前広場を「ひと」が主体のストリート空間の基盤へ、駅の高架化によって、今まで分断されてきた東西の駅前空間は、劇的に変化をとげることができず、メインストリートをつなげることで、オモテ・ウラの関係はなくなり、ロードの活用は、駅を中心に公共交通を利用する「ひと」を主体としたストリート空間を形成することが可能となります。また、ストリート空間の創出のために、一般車によるメインストリートの通過交通を排除した狭小の公共交通専用道路の性格(池津がない、スピードの低減度化、交通方向の誘導・制御など)を活かして、交通広場を一体的かつコンパクトに整備することも可能となります。

公共交通を明確かつ機能的に送るロータリー型の交通広場は、その中心に市役所のサービス業務窓口を移転し、また、イベントなどにも対応できる大きな公園を設けることで、「ひと」が主体の駅前公園広場を形成します。そして、ここからまち全体に、ストリートは広がります。



駅からはじまる、劇場ビレッジ。

ストリートの基点、低層小型商業地で囲まれたにぎわいの中心、『かすかべ駅公園』は、これまでの「駅」の概念を一変させます。劇場ビレッジの中心は、ガラスに包まれた「駅機能を持つビレッジ型の立体公園」。高架下は、「ひと」の活動をまち全体へ広げるビレッジ空間、コンコースの上は公園を立体的に重ねた新しいスペース。駅中での商業機軸は、映画館の売店のように最小限で、まちが劇場となれば駅自体が特等席になり、まちから見れば駅自体が劇場空間に、公園フロア同士でも、見る・見られるの関係は生まれ、だれもが満席になり、観客になります。そして、轉化されたプラットフォームは、「待つ」という行為自体も、豊かに演出をします。歩くだけ、座るだけ、乗り換えるだけ、何気ない駅での行動も、まちを彩る豪華な1シーン。劇場ビレッジは、駅からはじまります。



都市を断面で考える (オープン化のパターンランゲージ/2009)

GX・グリーンインフラ

(暑熱・水災害・生物多様性・バイオフィリックデザイン)



防災・レジリエンス

(エリアBCP・日常化・フェーズフリー)



これからの
人中心の

まちづくり・街路づくり

(官民・民民・官官の連携がより重要)



安心安全

(防犯・心理的安全性・コミュニティ)



ウェルビーイング

(健康・幸福度)

GX・グリーンインフラ

(暑熱-水災害・生物多様性・バイオフィリックデザイン)

防災・レジリエンス

(エリアBCP・日常化・フェーズフリー)

「ウォークブル」をデザインする際のキーワード

アーバン
デザイン

コミュニティ
デザイン

景観・空間
デザイン

つくる

存在価値を高める

奥行き感
見えがくれ・借景
布石・折れ曲がり
曖昧性・重ね
表面摩擦・凸凹
視覚的变化・リズム
アクティビティ
使い方の変化

つかう

利用価値を高める

プロセス
デザイン

リーガル
デザイン

空間と空間、境界と境界、街路と街路、人と場
の、**「取り合い」**の工夫

ソーシャル
デザイン

安心安全

(防犯・心理的安全性・コミュニティ)

ウェルビーイング

(健康・幸福度)

第7回マチミチ会議
(全国街路空間再構築・利活用推進会議)

「デザインする」 への挑戦

堀江佑典

Yusuke Horie

一般社団法人エリアマネジメントラボ 理事

株式会社サンシャインシティ まちづくり推進部 エキスパート
andscape

北海道科学大学 客員教授